

この号は、理事・監事・評議員・保護者・職員のみなさんにお届けします。

からはし通信

2020. 6. 15

No. 8

社会福祉法人 唐橋福祉会

編集兼発行人 理事長 下村 勉

6月5日に開かれた（社）唐橋福祉会の第77回理事会は、重要な6つの議決を行いました。その中から、「2019年度の会計決算」と「職員の職名変更（園則の改正）」についてポイントをお知らせします。

赤字から黒字に大きく転換（19年度決算）

2018年度の園財政の決算は800万円近い赤字決算でしたが、2019年度は一転して、1140万円の黒字決算となりました。これは、19年4月より当園が認定こども園へ移行した効果であり、収入が2400万円以上増額した一方、支出がほぼ横ばいに留まった結果です。

その上、開園当初の園舎建設の借入金を全額返済することができ、差し引き上記の黒字を計上することができました。支出のうち、人件費は収入総額（2億1688万円）の79%を占める1億7136万円にのびりましたが、前年度の人件費率が87%であったことと比べると8%も下落しました。保育園の安定的な経営のためには、人件費を7割台に納めるのが好ましいとされていますが、どうにかその枠内に収めることができました。

黒字となった1140万円は全額、老朽化対策費として積立金に積み増ししました。20年度は、「園舎外壁の全面塗り替えと補修」、「エアコン設備の全面更新」など老朽化対策に約4000万円を必要とする予定です。従って、この黒字決算を手放しで喜べる状況にはありません。

大きく変わった職員の職名（園則の改正）

当園は、昨年4月から「保育所型・認定こども園」に移行し、「保育一元化」へ一歩前進しました。しかし、「保育所型」であることなどから園名の改称は行わず、職員の職名も従来の保育所的なスタイルを維持してきました。しかし法的に「認定こども園」であることに違いはなく、財政的にも大きな改善が上記のようにありました。このようなことから、今年度より職員の職名を次の通り「こども園」スタイルに改めることになりました。そのための園則改正を理事会で議決しました。

主な改正点は次の通りです。（改正は4月1日に遡って実施しました）

- ・主任保育士（廃止） → 副園長を配置（遠藤）
- ・副主任保育士（廃止） → 主幹保育教諭（2名）を配置（國米・林）
- ・保育士（廃止） → 保育教諭（29名）を配置
- ・幼稚園教諭、小学校教諭 → 各1名を配置（疋田・下村）
- ・園長、事務長、栄養士、調理員、業務員、保育補助者、保育支援員などは変更なし。

実際には職名が変わっただけで、しごと内容の変更はありません。

△

6月12日、園庭に琉球朝顔が咲き始めました。今年も12月中頃まで毎朝、新しい花が咲き続けます。